

令和7年度 第3回 浜松中部学園運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月14日（金） 14時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 浜松中部学園 会議室
- 3 出席委員 村井 秀行、桐井 晶、鈴木 秀夫、広瀬 恵子、馬淵 吉晴
富田 昌和、鳥居 浩幸、三浦 一哲、森川 誉進、三ツ井 りか
鈴木 康子
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 岡本 雅康（校長）、星宮 ちさと（教頭）、杉山 貴和（教頭）
影山 直巳（主幹教諭）、井上 佐矢子（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 井上 佐矢子
- 8 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、桐井委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 9 協議事項
(1) 中部学園の授業の現状について
(2) 学校評価の項目について
- 10 会議記録
司会から委員総数11人のうち11人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 中部学園の授業の現状について
 - ・ 学年を追うごとに成長している様子が伺えた。廊下に校外学習の体験の掲示があったが、色々なところに行って、貴重な体験をしていると思った。（三ツ井委員）
 - ・ 中等部の掲示物がすばらしかった。先日、美術館を訪問した時に、中部部生徒が作成した作品鑑賞のポイントの内容がとてもよくて感心した。中部中学校に関わっていることを誇らしく感じた。（鈴木康子委員）
 - ・ 学年を追うごとに授業への集中が高まっていることを感じた。掲示板の書道の作品等も上達していた。（森川委員）
 - ・ 実際の授業をみることでよかった。お子さんや地域での関わりの中で、小さな頃から知っている子ども達が多く、大きくなったなと感じた。（鳥居委員）
 - ・ 学年が上がるにつれて授業に対する態度も落ち着いてきている。4年生の授業で発表の仕方について教員が指導をしてやり直させていた。正しい発表の仕方まで指導をしていることに感心した。（三浦委員）

- ・みんな大きくなったなと感じた。廊下の掲示の書道作品も個性豊かな作品ばかりだった。
(馬淵委員)
- ・中等部の授業はやはりクラスの雰囲気の違い、メリハリがある印象を受けた。5年生の林間学校の打ち合わせでは、先生の指導から、子供達に自ら学び、主体的に学ぶ機会が提供されていて、その大切さを感じた。(広瀬委員)
- ・昔は教員から生徒への一方向の指導だったが、今は、教員からの言葉に対して子供達が発言し、それを受けてまた教員が話すという双方向の授業になっていた。(村井委員)
- ・今の子はのびのびとしている。子供が前でタブレットを使って発表し、教員が教室後方で見守っていた。タブレットをうまく使えない子に気付き、手助けをしている子供がいた。集団として団結していてよい雰囲気だと感じた。そういった子供達の関わり方は、昔も今も変わっていない。教えるべきことをしっかりと子供に教えてくれていて嬉しかった。さすが中部中だと感じた。(鈴木秀夫委員)
- ・中等部の道徳の授業を見た。クラスごとに授業の進め方が少しずつ異なり、授業準備が大変なのではと思った。生徒達を1時間飽きさせずに集中させている姿に感心した。それぞれの協議委員の言葉を今後に生かして頂きたい。(桐井委員)

(2) 学校評価の項目について

議長の指示により、影山主幹教諭から、別紙資料に基づき学校評価の項目について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・基礎期、自立期、充実期の言葉について(桐井委員)
- ・基礎期は1～4年、自立期は5～6年、充実期は7～9年(影山教諭)
- ・いじめの問題について 昨年度は学年が上がるにつれて、いじめはいけないと考えているのは、教員の指導によるものなのか。(三浦委員)
- ・小さな子供は失敗して学ぶので、経験を積む中で、良いことと悪いことを学んでいく。様々な経験から学んだ結果として、高学年になるといじめはやってはいけないことだとしっかり理解することができるのではないだろうか。(岡本校長)
- ・実際にいじめはあるのか？(桐井委員)
- ・いじめというと大きなものをイメージするかもしれませんが、小さなトラブルやちょっとした嫌がらせでも認知している。早い段階からだめなものはだめだと伝えていった結果、高学年になると小さなものも減っているのが実態であり、良いことだと考えている。今後も意識して取り組んでいく。(岡本校長)
- ・小さなうちからいじめの芽を摘んでいくということですね。自分はそのつもりがなくても相手がそう思ったらいじめということ。(鈴木秀夫委員)
- ・浜松市でもいじめの重大事案に認定されているものもあるが、さかのぼっていくと、低学年や幼稚園のときが始まりということもある。小さなことであってもだめなものはだめだと伝

えていく。(岡本校長)

- ・評価項目について 空白になっている部分があるがその意図は？(森川委員)
- ・子供達にしかわからないことについては、保護者に調査していない。(影山教諭)
- ・そうであるとするならば、地域へのつながりについて調べる項目についても保護者だけでなく、児童生徒の意見も聞いてみたい。(森川委員)
- ・いじめの早期発見、早期対応に関する項目についても、保護者と児童との両方に聞いたらどうか。(広瀬委員)
- ・子供には、学級の雰囲気、相談体制、解決援助といじめに関する評価をするために3つの質問項目を設定し、保護者については、それらをまとめて早期発見を問う一つの項目にまとめている。(星宮教頭)
- ・子供向けの言葉と保護者向けの言葉であるならそのままよい。(広瀬委員)
- ・子供の心や保護者の心が表れるような学校評価になればよいと思う。(桐井委員)

その他報告事項等

星宮教頭から、別紙資料に基づき部活動地域展開の現状についての説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・生徒の負担金、コーチへの謝礼はいくらぐらいを想定しているのか。(三ツ井委員)
- ・10月24日付、はまクルガイドライン(市HP)によると、受益者負担(参加者が払う)となっている。浜松市として、困窮家庭を支援する準備もしていると聞いている。
必要経費を参加者で賄うため、参加者が少なければ負担は大きくなるのではないかな。
(岡本校長)
- ・中体連の公式戦は土日だが、大会参加は教員の引率が必要なのではないか。
(桐井委員)
- ・部活動として参加をするなら教員が引率をする。はまクルにも参加している場合は部活動として大会に出るのか、クラブで出るのかを相談する必要はある。競技によって、例えば柔道の場合は全柔連の公的指導者資格がないと大会引率できないなど、誰でも引率できるわけではない場合もある。(岡本校長)
- ・私的な〇〇杯は、地域クラブでも参加可能なのか？(桐井委員)
- ・現在もスイミングクラブやサッカークラブなども選択肢の一つであり、ピアノ等の習い事等と同じように「はまクル」も考えてもらえたらよいのではないかな。(岡本校長)
- ・元城サッカーや北小ソフトと同じなのか。(村井委員)
- ・それらは小学生対象だが、中学の場合は、他の中学校と合同でクラブを立ち上げることも可能である。(岡本校長)
- ・休日は土日のどちらかとなっているが、1日できるのか？(村井委員)
- ・現在の部活ガイドラインと同じ。はまクル以外のクラブでは、土日の2日間とも活動するこ

ともありうる。(岡本校長)

- ・ はまクルはどれぐらいの単位で作られるのか？(村井委員)
- ・ 部活動に替わるものであるため、学校単位あるいは近隣の学校との合同活動が多いと思われる。(岡本校長)
- ・ 現在の部活の合同チームもはまクルになるのか？(鳥居委員)
- ・ 部活として活動するのならば合同チームとして大会に参加することもできる。合同でクラブを作ろうということになれば、そのような形になる。クラブができなければ、平日だけ活動をして、土日は活動しないということになる。(岡本校長)
- ・ 部活単独で大会参加もできるが、クラブでも参加が可能ということ。土日に練習するためにクラブを立ち上げた場合、どちらで大会に参加するのか迷うのではないか。部活として参加すると決めたら、他校からクラブに参加している子供の中には(大会に出られず)辛い思いをする場合も想定されるため、どちらがよいのか決められない場合もある。(鳥居委員)
- ・ 部活動とクラブの指導方針等を確認・連携する必要がある。(岡本校長)
- ・ アンケート結果の母数を知りたい。(富田委員)
- ・ 5, 6, 7 年生が対象数。約 270 人ぐらいである。(星宮教頭)
- ・ 270 人に対して、今回の結果は多いのか少ないのか？(富田委員)
- ・ 7 年生については、現在部活動に参加している生徒のうちで、休日も活動したい人の人数である。(星宮教頭)
- ・ 多いのか少ないのかよくわからない。ターゲットとしては、楽しみたい人でありトップを目指す生徒は入っていないということか。(富田委員)
- ・ 大規模組織を作ってその中から 1 軍 2 軍... というようにセレクションをして強い生徒ばかりを集めたら強いチームができてしまう。これでは、バランスが崩れるのでは。どちらも入れるようにしたり、組織の大きさに差が出ないようにしたりする必要がある。(富田委員)
- ・ はまクルは全国トップを狙うようなことを目的としていない。ただし、勝ちたいという目標をもって取り組むことは、部活動同様に大切なこと捉えている。(岡本校長)
- ・ 子供達がどのような選択をするのかはわからない。(岡本校長)
- ・ ターゲットがわからないし、ゾーニングも曖昧。組織が大きくなれば、小さな負担金で大きなお金が集まり、よい指導者を集めることができる。(富田委員)
- ・ クラブによってはそのようなこともあるかもしれない。(岡本校長)

司会から、次回会議は、令和 8 年 2 月 8 日(火)に浜松中部学園の会議室で開催する旨の報告があった。

